

■病気が突然にやってくる
ある日、突然家族が倒れ、救急車で急性期の総合病院に運ばれる。医師から「ご家族は脳出血です。救命は出来ましたが、何らかの後遺症が残ります。リハビリテーション病院への転院を考えましょう」と説明をされる。

日頃病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務していると、このような状況がよく目にする。突然病気になった衝撃や動揺、心配の中、退院の準備を進められるだろうか。

なぜすぐに転院をすすめられるのか。我が国には地域医療構想があり、「医

療の機能分化」が掲げられている。救急医療とリハビリテーション医療は別々の病院が担う場合が多く、この移行をスムーズに行うために、入院初期から退院先の選定を求められるのである。

■患者さんへ合った療養先を選択
医療機関で勤務をする社会福祉士は医療ソーシャルワーカーと呼ばれ、患者さんの病状に合わせた療養先の選定や諸制度の活用相談に応じたり、地域の医療福祉機関と入退院に関する連携を行って

施設、自宅に近い環境で介護が提供される「有料老人ホーム」などがある。施設によって医療や介護の提供体制は異なるため、患者さんの病状や希望にあった療養先を選びたい。

■希望を伝える
よく患者さんやご家族から「良い病院、施設を紹介してほしい」と言われるが、実はこれが一番悩ましい。多くは質の良い医療、介護体制を指すと思うのだが、「良い」の価値は人によって異なる。「家から通いやすい」「建物がきれい」「安価」など、しっかり希望を伝え、病気になるまで自分たちらしい生活を実現してほしい。

知って得 医療・介護

藤田医科大学七栗記念病院
医療ソーシャルワーカー
落合幸太郎



⑨ 突然の病気に、日頃から備え考える

人の症状緩和を図る「緩和ケア病棟」、継続的な医療が必要な患者さんが長期療養する「医療療養型病棟」、介護とリハビリテーションを行う「在宅復帰をを目指す」「介護老人保健施設」などがある。そのた

自宅介護
介護保険
の利用を
希望する
場合は、
望を伝え、
病気になる
まで自分
たちらしい
生活を実
現してほしい。

医療・介護においては、たくさんの選択が必要になる。患者さんは自らの希望を伝え、また自己決定も医療ソーシャルワーカーの大切な役割となっている。